

UBS世界公共インフラ債券投信(通貨選択型)

- 円コース(毎月分配型)／(年2回決算型) ■豪ドルコース(毎月分配型)／(年2回決算型)
- ブラジルリアルコース(毎月分配型)／(年2回決算型)
- 南アフリカランドコース(毎月分配型)／(年2回決算型)
- トルコリラコース(毎月分配型)／(年2回決算型)
- マネーボール(年2回決算型)

【投資信託説明書(目論見書)のご請求、お申込は】

野村證券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号

【加入協会】日本証券業協会、(社)日本証券投資顧問業協会、(社)金融先物取引業協会

【設定・運用は】

UBSグローバル・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者、関東財務局長(金商)412号

【加入協会】(社)投資信託協会、日本証券業協会、(社)日本証券投資顧問業協会

UBS世界公共インフラ債券投信(通貨選択型)
年2回決算型 第3期決算のお知らせ

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「UBS世界公共インフラ債券投信(通貨選択型)」各通貨コースの「年2回決算型」は、2010年10月25日に第3期決算を迎えました。当期の分配金額について下記の通り決定しましたので、お知らせ致します。

■第3期分配金(1万口当たり、課税前)
【第3期:2010年4月27日～2010年10月25日】

円コース	豪ドルコース	ブラジルリアルコース	南アフリカランドコース	トルコリラコース
10円	10円	10円	10円	10円

※上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金を示唆、保証するものではありません。

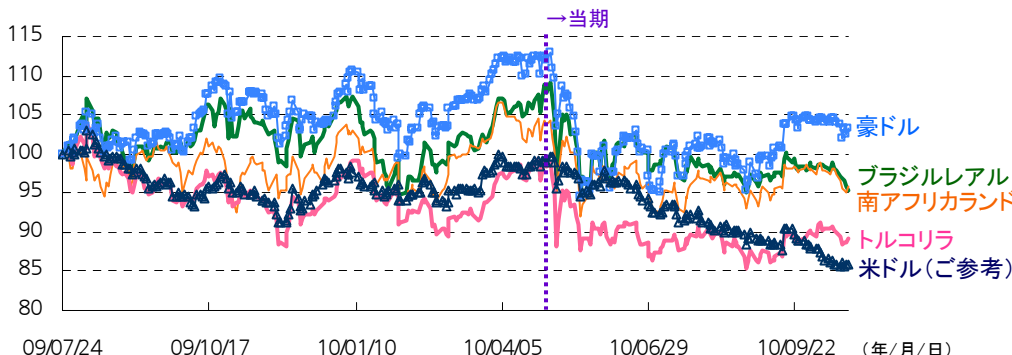
◎当期の市場動向

当ファンドの実質的な投資対象である公共インフラ債券市場は、当期、公益5.54%、通信5.81%、生活必需品6.10%、エネルギー5.56%、運輸5.92%の上昇となりました(円ヘッジベース)*。

*2010年4月23日～2010年10月21日におけるパークレーズ・キャピタル・グローバル総合社債インデックスの各セクターのパフォーマンス

当期の為替市場は、期初、ギリシャの債務問題を発端とした欧州周辺国に対する信用不安の高まりから、リスク回避の動きが強まり、各通貨は円に対し大きく下落して始まりました。その後、商品市況の回復などで各通貨は反発したものの、米国での経済指標の低迷などから、景気回復に対する懸念が高まり、通貨は円高基調をたどりました。9月中旬に、日銀が為替介入に踏み切ると、米ドル安の動きが一旦落ち着いたものの、米国の追加金融緩和への期待から、再び円高が進み、米ドル、当ファンドのヘッジ対象通貨ともに前期末比対円で下落して期末を迎えました。

当ファンドのヘッジ対象通貨国では、期中、豪州が0.25%の利上げを実施しました。ブラジルは、良好な経済環境を背景に、3度にわたり計2%の利上げを実施しました。一方で南アフリカは、インフレ懸念の後退などから0.5%の利下げを実施しました。

■ご参考: 各為替ヘッジ対象通貨の推移(対円)(指数化、スポット・レート/2009年7月24日～2010年10月22日)


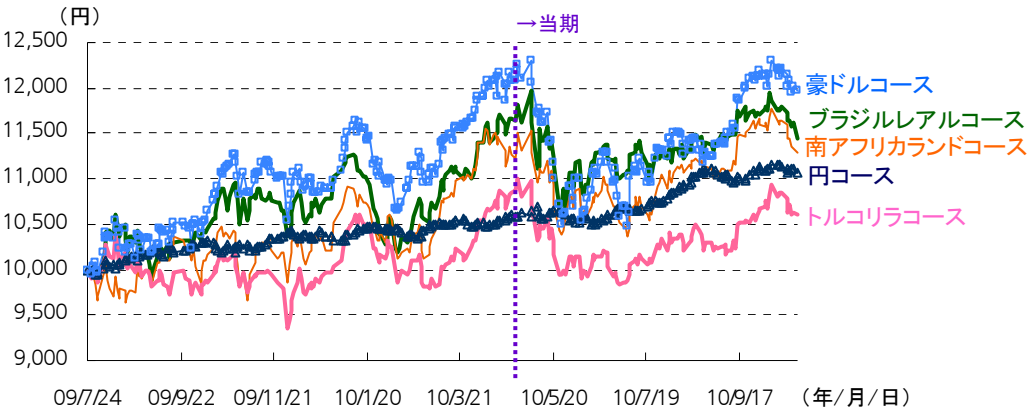
出所: ブルームバーグのデータを基に当社作成

左記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものでもありません。

◎当期の運用経過

以上を背景とし、当期の各コースのパフォーマンスは下記図表の通りとなりました。当該外国投資信託組入銘柄の平均最終利回りは、2010年4月末時点で4.23%、2010年9月末時点で3.58%となっています。

■各コース、設定来の基準価額(分配金込み)の推移 (2009年7月24日～2010年10月25日)



第3期の各コース騰落率	
円	4.71%
豪ドル	-0.89%
ブラジルリアル	-1.62%
南アフリカ	0.59%
トルコ	-2.32%

基準価額の記載については全て信託報酬控除後としております。分配金込み基準価額は課税前分配金を加算して計算しています。上記は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆、保証するものではありません。

◎分配方針と今後の運用方針

当ファンドは、年2回の決算時(毎年4月25日および10月25日、休業日の場合は翌営業日)に、分配原資の範囲内で、委託会社が市況動向等を勘案して分配金額を決定します*。当期につきましては、当ファンドが基本的に元本成長を重視していることに鑑み、基準価額に大きく影響の及ばない範囲での収益分配とさせていただきます。

*分配金は分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合があります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「分配方針」をご覧ください。

最近の低金利の環境下において、依然として債券需要は旺盛な状況にあります。今後、債券市場は経済指標や米国の追加的緩和措置、欧州のソブリンリスクなどの進展に左右されると思われます。今後発表される第3四半期の企業業績は、第1四半期や第2四半期と同様に社債市場に好影響を与えるかと予想されます。

世界経済の回復には時間がかかり、金利も引き続き低い水準で推移すると予想される中、信用スプレッドは歴史的に魅力的な水準にあり、足元の社債市場は既に悪材料を織り込んでいると見られることから、今後も中長期的に堅調な推移が考えられます。

今後も各セクターに対する運用方針に変更はなく、引き続き公共インフラ債券の中で魅力ある個別銘柄の選択に重点をおいてまいります。

今後とも「UBS世界公共インフラ債券投信(通貨選択型) 年2回決算型」をご愛顧賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

投資リスク

当ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動きによる影響(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を受けますが、これら運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。当ファンドにかかる主なリスクは次の通りです。ただし、すべてのリスクについて記載されているわけではありません。

◆ 各ファンド共通(「マネープール」を除く)

■ 公社債に関する価格変動リスク

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて公社債への投資を行います。公社債の価格は、主に金利の変動(金利変動リスク)および発行体の信用力の変化(信用リスク)の影響を受けて変動します。公社債の価格が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。公社債の価格の変動幅は、公社債の償還までの残存期間、発行体の信用状況などに左右されます。

■ 為替変動リスク

「豪ドルコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」 「ブラジルリアルコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」

「南アフリカランドコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」 「トルコリラコース(毎月分配型)／(年2回決算型)」

投資対象である外国投資信託の組入資産について、原則として対各関連通貨(*)で為替ヘッジを行いますので、基準価額は当該関連通貨(*)の為替変動の影響を大きく受けます。また、完全に対当該関連通貨(*)で為替ヘッジすることはできませんので、当該組入資産に係る通貨の為替変動の影響を受ける場合もあります。当該関連通貨(*)金利が当該組入資産に係る通貨の金利より低い場合は、その金利差相当分のコストがかかり、基準価額の変動要因となることがあります。

「円コース(毎月分配型)／(年2回決算型)」

投資対象である外国投資信託の組入資産について、原則として対円での為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図っております。ただし、完全な為替変動リスクを回避することはできませんので、基準価額は円と当該組入資産に係る通貨との為替変動の影響を受ける場合があります。また、円金利が当該組入資産に係る通貨の金利より低い場合、その金利差相当分のコストがかかり、基準価額の変動要因となることがあります。

(注)文中の(*)については、下記の表よりそれぞれ当てはめてご覧ください。

	豪ドルコース	ブラジルリアルコース	南アフリカランドコース	トルコリラコース
*	豪ドル	ブラジルリアル	南アフリカランド	トルコリラ

■ カントリー・リスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、運用方針に沿った運用が困難となったりする場合があります。

◆ 「マネープール」

■ 金利変動リスク

公社債の価格は金利変動によって変動します。一般的に公社債の市場価格は、金利が低下した場合には上昇する傾向となり、逆に金利が上昇した場合には下落する傾向があります。

■ 信用リスク

ファンド資産を公社債およびコール・ローン等の短期金融商品で運用する場合、取引相手方による債務不履行により損失が発生する可能性があります。

「その他の留意点」「リスク管理体制」については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

お申込メモ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください

設定日	2009年7月24日
信託期間	2009年7月24日～2018年10月25日
決算日	<毎月分配型> 原則として毎月25日 <年2回決算型> 原則として毎年4月25日および10月25日 ※決算日が休業日の場合、翌営業日が決算日となります。
申込日	原則として、販売会社の営業日に受付けます。ただし、次のいずれかの休業日と同日の場合および12月24日には、購入、換金およびスイッチングの申込の受付は行いません(「マネープール」は除く)。 ・ロンドン証券取引所、ニューヨーク証券取引所、ロンドンの銀行、ニューヨークの銀行、ルクセンブルクの銀行
購入単位	1万円以上1円単位(全額をスイッチングされる場合は、1円単位です。ただし、「マネープール」は、「年2回決算型」の各ファンドからのスイッチング以外による購入は行えません。)
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額(スイッチング価額も原則同じです。)(購入代金は、原則として購入申込受付日から起算して7営業日目までに販売会社にお支払いいただきます。)
換金単位	1円以上1円単位
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた額(スイッチング価額も原則同じです。)(「マネープール」には信託財産留保額はありません。)
換金代金の支払日	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社においてお支払いします。
課税関係	収益分配時の普通分配金、換金時、スイッチング時および償還時の譲渡益に対して原則として課税されます。 なお、税法が改正された場合等には、内容が変更になる場合があります。
受託会社	野村信託銀行株式会社

ファンドの費用 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください

当ファンドのご購入時や保有期間中には以下の費用がかかります。

■ 直接ご負担いただく費用

購入時手数料	購入価額(購入申込受付日の翌々営業日の基準価額)に3.15%(税抜3.0%)の率を乗じて得た額
スイッチング時手数料	購入価額に1.575%(税抜1.5%)の率を乗じて得た額(「マネープール」へのスイッチングには手数料はかかりません。なお、「マネープール」に「毎月分配型」はありません。)
信託財産留保額	換金価額(換金申込受付日の翌々営業日の基準価額)に0.3%の率を乗じて得た額 (「マネープール」には信託財産留保額はありません。)

■ 間接的にご負担いただく費用

運用管理費用 (信託報酬)	<各ファンド(「マネープール」を除く)>日々の純資産総額に年0.924%(税抜年0.88%)の率を乗じて得た額 ※なお、実質的にご負担いただく信託報酬率(信託報酬にファンドが投資対象とする投資信託証券の管理報酬等を加えた概算値)は、年1.624%程度(税込)となります。 <「マネープール」>日々の純資産総額に年0.5775%(税抜年0.55%)を上限とする率を乗じて得た額(2010年5月末現在、年0.07875%以内(税抜年0.075%以内))
その他の費用・ 手数料	監査報酬および法定手続き(書類の作成、印刷、交付等)に関する費用など(日々の純資産総額に対して上限年率0.1%(税込)(「マネープール」は年率0.05%(税込))を間接的にご負担いただく場合があります。 ※原則として、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。 信託財産に関する租税、組入有価証券の売買委託手数料、外国での資産の保管費用などが、原則として費用発生の際、ファンドから支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。

投資者の皆様にご負担いただく手数料などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することはできません。